

## Garrard 401 の再構成(16) —カートリッジの交換(1)—

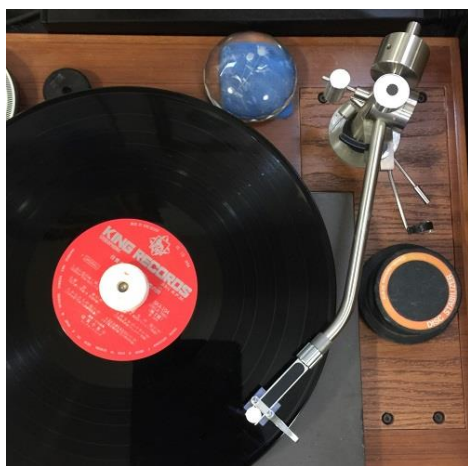
### 1. はじめに

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレーク、Crystal E などの導入の結果を受けて、Garrard 401 のカートリッジを以前使用していた Ortofon Royal N に戻してみます。

### 2. Garrard 401 の再構成の試聴方法

Garrard 401 のシステム構成の経過は、[Garrard 401 の再構成シリーズ](#)で報告してきていますが、[前報\(15\)](#)ではフォノイコライザーを ZANDEN Model 120 のアンバランス入力としており、その後、[アナログプレイヤーの比較試聴\(18\)](#)においてフォノイコライザーを 47 研 4718 に替え、[仮想アース Crystal E の導入\(5\)](#)において一時的に Maraz7 タイププリにしてみたりしています。今回、ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレーク、Crystal E などの導入の結果を受けて、Garrard 401 のカートリッジを ZYX R100-EX から以前使用していた Ortofon Royal N にしてみます。再生経路は次のとおりであり、カートリッジのシェルは、GRANZ のアームに付属していたもので、ダンパーフレークを貼ります。さらに、Garrard401 と 47 研 4718 のアースラインには、Crystal E を接続します。

Garrard401→47 研 4718→TruPhase



試聴音源は、前報(15)と同様、聴きなれた下記を使用しました。

LONDON SLC 1138

ファリャ 三角帽子

アンセルメ指揮スイスロマンド

ARCHIV(日本ポリドール) 28MA 0020

J.S.Bach チェンバロ協奏曲

トレヴァー・ピノック指揮イングリッシュコンサート

harmonia mundi(Deutche) KUX-3248-H

ミトマニア

ベーレン・ゲスリン

キングレコード SKA-104

愛と自然の歌

倍賞千恵子

### 3. Garrard 401 の再構成の試聴結果

Ortofon Royal N は、Ortofon のカートリッジのなかでは、もっとも繊細な表現が可能ですが、ゲインが小さく、ハムが乗りやすく使いにくいところがありました。それがどのように克服されているかが焦点です。

三角帽子は、これまでの印象より打楽器の音の立ち上がりがよく、各パートの音の分離が向上しています。

チェンバロ協奏曲は、これまでよりチェンバロの繊細な表現が向上し、バックのバロックアンサンブルも歯切れよく演奏されています。

ミトマニアは、これまでの印象よりボーカルの抜けがよく、バックの古楽器の音の切れも明瞭になっています。

倍賞千恵子は、前報(15)の ZYX R100-EX と ZANDEN Model 120 の組み合わせの時と比べて遜色なく、伸び伸びとした歌唱で、Ortofon Royal Nらしい細かい表現も出ています。

### 4. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレーク、Crystal E などの導入の結果、ゲインも通常の録音では、ほぼ問題なく、ハムも解決しており、Garrard401のシステムとしては、これまでになく Ortofon Royal Nらしい細かい表現が活かされています。

以上